

川崎市立南生田小学校 学校だより 第4号

南いくた

令和6(2024)年6月27日(木)発行

【学校教育目標】

心豊かで自らよく学び、

たくましく活躍できる子どもの育成

南生田小学校校長

羽深 東

日光修学旅行紀行

6月22日と23日の2日間、6年生と日光へ修学旅行に行ってきました。

1日目、前日から梅雨に入っていました。雨の心配は無い1日でした。子どもたちは、ちょっと興奮気味に友だちと話をしながら、「出発の会」の始まりを待っていました。土曜日にもかかわらず、朝から見送りに来てくれた多くの教職員に気づくと、あちこちからうれしそうに「〇〇先生がいる。」と声をあげたり手を振ったりしていました。中には「え、今日は休みなのに。」と、教職員を気遣っている子どももいて、その思いに感謝するとともに立派な子どもたちだなあと感心してしまいました。バスで登戸駅まで向かい、そこからは日光までの修学旅行特別列車に乗り換えました。日光に着くと、まずは華厳の滝に向かいました。このところの雨不足により、滝の水量がとても少ないということを事前に聞いていましたが、思ったほど少なくはなく、いつもの迫力のある滝とは少し趣が違い繊細さを感じることができました。その後は、「ふくべ細工」体験をしました。ふくべ細工とは夕顔の実の外皮を乾燥させたものに絵付けをして、小物入れやお面などにするものです。1時間ほどの活動でしたが、子どもたちは迷うことなく、絵付けに夢中で取り組んでいました。その土地の文化に触れることも旅の楽しみの一つです。ただ、子どもたちにとっての一番の楽しみは旅館で過ごす時間だったようです。夕食は「おいしい。おいしい。」という声があちこちで聞かれました。友だちと一緒に食べる食事は何よりのごちそうだったのだと思います。夜は興奮冷めやらずで、なかなか寝付けなかった子もいました。

2日目は大雨の予報にもかかわらず、旅館を出発してからの30分間ほど霧雨が降っただけでした。旅館のすぐそばにある日光東照宮見学が2日目のメインです。東照宮専属のガイドさんのお話が巧みで、子どもと一緒に聞き入ってしまいました。建造物に込められた思いや建造当時の建築技術の高さに感動しました。そしてこの日は「沖縄慰霊の日」でもありました。世界を見回すと、現在でも戦争行為により生きるか死ぬかの日々を送っている人々がいます。戦国乱世を終わらせることに人生をかけた徳川家康の話聞きながら、安心して修学旅行という楽しいひと時を過ごしていただけるという幸せと平和の尊さを大切にしていかなければと思いました。友だちと談笑する子どもたちの笑顔を見ながら、ふとそんなことを考えていました。

さて、今回の修学旅行で一番印象に残ったことは、6年生の素晴らしい行動と態度です。大勢で動くというのは、公共の場では迷惑と感じられることも多いのですが、「修学旅行かなあ。今の子どもたちって立派だね。」と微笑んで見てくれている方々に多く出会いました。私は心の中で「今の子どもではなく南生田の子だからです。」とつぶやいていました。一般的に、子どもたちが移動する時は進む列を意識するだけで、周りを見ずに前の子についていくことを優先しがちです。しかし、南生田小の6年生は周りに迷惑がかからないように、お互いに声をかけながら臨機応変に行動していました。また、注意や指導をされなくても、話を聞くときは自ら気づいて瞬時に話を止める、静かに人や時間を待つことができるなど、自ら状況を判断し、適切な行動をとろうとする力が伸びてきていることを感じられる修学旅行でした。

7月20日から8月25日までは夏休みです。子どもたちにとって充実した休みになることを願っています。